

飛翔!

飯南神楽団

結成10年を経て団へ昇格



谷地区を活動拠点として平成17年に結成された飯南神楽同好会。今年、結成10周年を迎えるにあたり、名称を「飯南神楽団」へと変更。新たなスタートを切りました。

「谷子ども神楽同好会」のOBを中心に結成された飯南神楽団には、現在18名のメンバーが所属しています。谷地区出身者だけでなく、町内全域、そして町外から加入したメンバーも所属しており、谷体育館で毎週火曜日と木曜日の夜に練習を行っています。

町内のイベントなどへの出演はもちろんですが、町外からも多くの出演依頼があり、年間30回近くの公演をこなしています。

「最初から神楽団でもよかったのですが、神楽をすることが義務になるのはいやでした。みんなが楽しくないと続かないと思ったので」

そう語るのは、神楽団で団長を務める石飛康則さんです。

団へ昇格するという話は、周りからの声も大きかったといえます。団にならないと出る事ができない大会もあるなど、団を名乗るということは、相応の実力が求められます。多くの

公演をこなす中で培ってきた実力と実績が、後押しとなったことは間違いありません。

「練習風景を見ても、団になったことで、団員の神楽に対する取り組み方が変わってきていると感します。けれども団になっても「楽しむ」という姿勢は変わりません」と石飛さん。

練習は本番さながらの大迫力。真冬にもかかわらず汗だくで練習する団員。冷え切った体育館が熱気で包まれます。それぞれの動きの精度を高めようと、高い集中力で練習に取り組みますが、真剣さの中にも楽しそうに演じる姿が印象的でした。

「自分たちが楽しく演じることで、お客さんにも楽しく見てもらえる。やっぱり楽しむことが絶対ですね」

楽しみながら神楽をすることを体現する石飛さんに引張られて、団員の顔にも自然と笑顔が溢れます。

「今は自分たちのことで精いっぱいですが、子ども神楽も作りたいし、次世代を育成していきたい」

未来を語る石飛さんの目には、飯南の伝統文化が受け継がれていく姿がはつきりと見えているようにした。